

平成 28 年度 第 1 回高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会

議事録概要

期 日

平成 28 年 9 月 6 日（火） 9:30～12:00

場 所

高知市役所たかじょう庁舎 3 階会議室

出席者

委 員

秋森眞五、西尾敦子、山中弘孝、前野當子、片岡浩司、加藤勉、篠森敬三、中屋圭二

事務局

県立図書館：館長 竹林貞治郎、次長 高橋敦子、専門企画員(司書育成・サービス推進担当)兼チーフ(利用サービス担当)山重壮一、
チーフ(情報資料担当)谷岡祥子

市民図書館：館長 貞廣岳士、副館長 高石敏子、新図書館運営準備担当係長 武井一仁、
新図書館運営準備担当係長 西内久代、資料管理担当係長 伊藤真樹、
図書利用担当係長 弘瀬聖子、主任 坂本亜砂子

その他

県教育委員会新図書館整備課：課長 国則勝英、課長補佐 宮本伸二、チーフ(運営体制整備担当)岡崎由紀美、主幹 竹崎大輔

市民図書館新図書館建設室：室長 池上哲夫、新図書館建設担当係長 小新貴士

概 要

1 両館長挨拶

2 会長・副会長の選出 会長：加藤勉、副会長：篠森敬三
議事録署名人の選出 山中弘孝

3 議事

(1) 議事 1 「高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会の同時開催について」事務局から説明を行った後、次のとおり質疑応答を行った。

(委 員)

市民図書館分室の運営を受けていますが、県市図書館システムの統合で便利になり、貸出できる冊数も増えて、多くの本を借りていかれる利用者が増えました。

(委 員)

新図書館で本を買う場合、県市どちらが経費を負担しますか。予算も一本化するのですか。

(事務局)

現在、別々に選書して購入しています。オーテピア高知図書館になっても別々に購入しますが、混ぜて配架するので、利用者から見れば県市の本の違いは分かりません。

(委 員)

見通しの利かない社会ですから、課題解決型の図書館に期待しており、レファレンスを充実してほしいと思います。物流について、いろいろ改善されてきていると思いますが、

さらに郡部の住人にも使いやすいサービスを望みます。100年先を見据えた先進的な図書館を目指してほしいです。

(委員)

県市それぞれの専門性を生かし、高めていってほしいと思います。共同で運営するに当たり、難しい点は何ですか。

(事務局)

共通の目的である“県民のため、市民のため”というの是一緒です。共同で行うことで相乗効果が出ればよいと考えています。

(委員)

県市が一緒になった後の人員配置はどうなりますか。

(事務局)

図書の購入は別々ですが、図書を貸し出す際には、県市両館の職員が並んで一緒にサービスを行うこととなります。

(委員)

コンセプトに「図書館利用に障害のある利用者に配慮した図書館」とあげられていることをうれしく思います。オーテピアには点字図書館も入りますが、具体的には、どのような障害者サービスになりますか。

(事務局)

来館が困難、本を読むのが困難、と大きく二つの困難に対するサービスを考えています。後で詳しく説明しますが、来館が困難な方のための宅配サービスや、読むことが困難な方のために多様な図書や媒体などの提供があります。

(委員)

県立図書館と市民図書館の役割と機能ですが、二つの円が重なっていない部分をどう展開させていくか、この点についても協議していただきたいと思います。

(委員)

それには、それぞれの独立性も重要だと思います。

(2) 議事2「高知県立図書館・高知市立市民図書館の平成27年度事業実績及び28年度事業計画について」

事務局から説明を行った後、次のとおり質疑応答を行った。

(委員)

今回、オーテピアができるにあたって図書館が注目を集めており、利用者が増えているのではないかと思います。

(委員)

この関心がずっと続いていけばと期待しています。

(委員)

予算はどうなっていますか。

(事務局)

県の資料費は8,000万円。研修費も計上して、県市の司書を先進地研修に出しています。市の資料費は7,500万円。司書の資質向上をさらに目指しています。市でいえば、従来は行政職採用でしたが、この3～4年は司書採用を行っています。

(3) 議事2「新図書館サービス計画について」

事務局から説明を行った後、次のとおり質疑応答を行った。

(委員)

図書館のサービスは膨大なものがありますが、この取り組みを行っていく職員の人員配置はどうなりますか。

(事務局)

基本方針に従い、様々なサービスを提供していくためには、当然マンパワーは必要ですが、費用対効果も考えなければなりません。

(委員)

介護や子育てなど、多忙で図書館へ行けない人も多いと思いますが、そういう人も利用できるようなサービスを考えてほしいです。

(委員)

取組にある行政支援サービスとは、高知市に限られたものでしょうか。

(事務局)

直接的には県庁・高知市役所ですが、他市町村には地元の図書館を通じて間接的に支援していきたいと考えています。

(委員)

新図書館にはたくさんの人が押し寄せると思います。まずは、最初の入り口での受け入れ体制や接遇が大切だと思います。そのための研修も必要です。小さな子どもは大人が介在しないと本に触れることができません。バギーをついて入りやすいか、子どもを連れて入ると静かにしなければならないなどと肩身が狭くならないか。つまり、お母さんが行ってみたいと思えるかどうか大切になってきます。

そうした視点で、どうやって裾野を広げていくかを考えていただきたいと思います。

(事務局)

新図書館には、静かに本を読みたい方、ディスカッションしたい方など多様な利用者に応じたさまざまな環境を用意します。親子コーナーには、音を出してもよい場所、靴を脱いであがれる場所もあります。読書ボランティアにも助けてもらいながら裾野を広げていきたいと思います。

(委員)

残念ながら絵本への興味・関心が薄れている現状があります。保育士や幼稚園の先生へのPRや研修についてもぜひお願いしたいです。

(委員)

さまざまなサービスがあり、膨大な量で、本当にできるのかと少々心配しています。ただ、“お客さまにどうなってもらいたいのか”が気になるころですが、例えば、貸出冊数等とは別に、それぞれのサービスごとにサービス指標のようなものがあるのでしょうか。そうした指標の達成が、がんばっている司書の評価につながる必要があるかと思っています。そういう体制づくりをお願いしたいです。

(事務局)

指標についてはいろいろと考えているところです。図書館に限らず、職員のモチベーションは大切だと思います。また、各分野にはそれぞれ専門家がいますので、司書は専門家へつなぐことも重要だと考えています。関係者や関係機関も増えていますが、各機関との関係性を深め、継続していくことが大切だと思っています。

(委員)

デジタル化の進展で、図書館が建ったけれど、自宅で図書館を利用できる、という時代でもあります。その中で、子どものころから本や文字にどう興味を持たせるかが大事なところです。また、リテラシーもとても重要だと考えます。

(事務局)

情報リテラシーも児童サービスも、たいへん重要だと認識しています。

(委員)

サービスを体系化してみると、非常に多くの項目、大きな仕事になったなという感想です。5年間でこのサービスを組み立てていくのは、正直気の遠くなるような話です。

(委員)

サービス計画検討委員会があるわけですが、図書館協議会との関係はどうなりますか。

(事務局)

新図書館のサービス計画を策定することを目的に、サービス計画検討委員会を開催しています。サービス計画検討委員会と図書館協議会と、両方の意見を取り入れながら、よりよい図書館となるよう運営を考えていきたいと思ひます。

午前11時55分 協議終了

以上の議事録の内容に相違ありません。

平成 28年 12月 5日

議事録署名人

山中弘孝

